

教区新報

第10号

発行
浄土真宗本願寺派
兵庫教区教務所

〒650
神戸市中央区下山手通8丁目
1番1号 本願寺神戸別院内
電話 (078) 341-5949

基幹運動の中の青少年教化

基幹運動推進という言葉は聞きはじめてから二年になりました。私たちの寺院は何を推進したのでしょうか。本来の浄土真宗の寺院は親鸞聖人のみ教えを相続させて頂く道場でありました。そのことを「寺院規定」第三条(昭和二十七年三月二十五日)宗則第十五号、及び「宗教法人」〇〇寺「寺則準則」第一条では以下のごとく示してあります。(「寺則準則」は内容的・文法的に重複しますから割愛します。)

〔寺院規定 第三条(寺院の目的) 寺院は、浄土真宗の教義をひろめ、法要儀式を行い、及びその寺院に属する僧侶、門徒その他の信者を教化育成し、その他宗教団体の目的を達成するための業務及び事業を運営し、並びに礼拝の施設その他の財産の維持管理を行い、もって公共の福祉に寄与することをその目的とする。〕

本来的に寺院は教化伝道することになっていて、しかしながら、その内容たるや寂しさを禁じ得ないものがあります。そこには教化伝道の本質を理解し得ないまま寺院が運営されているところに問題があるようです。特に本山教区で運動理念・方針を議論している内に日々すすんで行くことに怒りすらおぼえます。

たとえば「念仏の声を世界に子や孫に」の slogan をみてみても、その具体的内容たるや惨々たるものです。たとえば当教区の青少年教化の内容をみるならば、七七ヶ寺中仏一〇余・日校六〇弱の登録の現状です。登録数が多いことが活動を熱心に行っているとは断定できませんが、活発に運動が展開されているとはいえない実数です。特に総代会・仏社・仏婦の青少年教化への人材的・経済的援助が怠務であり、それなくして育成は不可能でしょう。住職個人とする教化伝道の時代は終わつたようです。といって住職が門徒にさす運動でもありません。まさに寺院ぐるみの時代なのです。

また教区の少年連盟・仏青連盟の研修会や、寺院後継者のための寺院子弟研修会の参加者の少なさは目を覆いたくなる惨状です。また、参加する事なく建前論的批判に終始する寺院の体質には嫌悪感すら覚えます。寺院子弟研修会の創設(昭和二十九年)以来二十四年、教区仏青連盟発足以来二〇数年、年月の移り変わりとともに日々運動が衰退していつて無気力感を覚えます。運動を阻害しているものは何なんでしょう。

昨年の宗派の海外派遣以来、研修会の参加者が増え始めました。これは海外派遣のための研修会への参加であった、自らの運動の一環としての研修会参加でないところが悲しいことです。しかし、若者の経験が運動を強化してゆくことに期待し、かつまた裏切つて欲しくない。ただそれだけです。一方、地道に現在の運動の中で精進している仏教青年達や日校・BSの指導者もいます。その努力にむなしさを感じず、運動に関わりを持ちたいと思えます。

小稿は基幹運動の中核と思える青少年教化に限定して述べましたが、また、教区の様々な青少年教化に関わる研修会への積極的参加から一歩ずつ事態の打開を図っていかなければならないと思えます。青少年教化の無關心さは寺院・教団の崩壊の始まりではないでしょうか。

法要儀式を厳粛に営み、法座活動が活性化し、寺院の存在が地域社会に大きく関わりを持ち、その影響力が社会に於て大きな指針となるようになるべきです。

基幹運動とはそこにあるのではないでしょう。学校が休日のたびに晨朝参拝する日校の子どもたちに接しながら、そんな思いにふける今日この頃です。

掛電西超慈念寺副住職 西 脇 修

「へえ、どんなこと言うてますねん」「ちよつとそこんとこ読んでみ。2の「地域改善対策の今日的課題」ちゆうとこや。そこで言うてることはやな、今まで同和対策事業をやつてきたから部落の悪い実態は随分と改善され、心理的差別も解消に向かつているちゆうこつちや」「そりやまあそうですわな」「ところが実態的差別的改善にくらべて、心理的差別的解消のほうはまだまだ不十分なのはどうしたわけや」「なるほど」「それはまだまだ社会全般に昔ながらの差別意識が残っているからや」「よう判らんわ。鶏と卵の理屈やな」

「第一から第四までが挙がつているんやな。その一は「行政に主体性が無かつた」ちゆうこつちや」「よう聞きますな」「ではなんで「行政に主体性が無かつた」かというところ「国及び地方公共団体」が「民間運動団体の威圧的な態度に押しきられた」からというわけや。」「へえ、する気のあるものができなかったなら押しきられたって言えましようが、する気なかつたんと違ひますのか、それにその「民間運動団体」って「解放同盟」のことであつてしやろ。」「こういう文章は決して名指しはせんわな。その二はやな。「同和関係者に自立、向上の

「その四は同和問題について世間で自由意見が交わせない「自由な意見の潜在化」ということ、これも「民間運動団体の行き過ぎた言動」によるとあるな」「するとご院さん、まとめてひつくるめて悪いのはお前たちやいうことですか」「この文章、筋から言うてそうなるな」「そんなこと言うてええんですか。これ作つた人は国の偉い人ではしやろ。そんな人がですな、国は一生懸命やつてきた、しかし心理的差別はなくなり、それは新しい原因があるからだ。それは解放同盟が行き過ぎたからだ、部落の人間に自主、自立性がなく甘つたれているからだ。責任は差別されている側にある、そんな言いかたが通るなら、これは、ご院さん同対審以前に帰つてまつせ」

「たしかにあんたの言う通り、同対審以前かもしれんわ、あるいは水平社以前かもしれんわ。とにかくここでは「民間運動団体の行き過ぎた言動」と「部落の人の非自主、非自立的性」が諸悪の根源のようにあげられているからな。」「行き過ぎ、行き過ぎ」って確認、糾弾のことであつてしやろ。」「この文章ではその糾弾が徹底して否定されているな、糾弾は「被糾弾者の人権への配慮に欠けたものとなる可能性を本来持つていてる」本来というのは「もともと」ってことやな。おまえ達自分の人権が侵害されたと糾弾に訴えるが、それはおまえ達を差別した相手の人権をもとと考へようとなしな方法なんぞぞ、それに差別かどうかはおまえ達だけで勝手にきめてるんじやないか、主観的な立場から恣意的に判断して「差別、差別と騒がずにもつと差別する側の人権を配慮し尊重してやれ」ということになるな、この文章では「そんなむちゃな」

「まあ聞きいな。そういう昔ながらの差別意識はやな、時代とともにだんだん薄れて行くし、どんどん実態を改善していけば薄れかたも早うなるちゆうもんや」「なるほど」「そう思うて国は一生懸命に実態改善対策やつてきた。ところが心理的差別の方は一向にようならん。ようならんのはならんだけの新しい原因があり、その原因を作つている奴がおるからちゆうわけや」「どいつですわね、そんな怪しからん奴は」「そこんとこちよつと読んでみるとやな」「今日、差別意識の解消を阻害し、また、新たな差別意識を生む様々な新しい要因が存在していることが挙げられる。」とあつて

「まあ聞きいな。そういう昔ながらの差別意識はやな、時代とともにだんだん薄れて行くし、どんどん実態を改善していけば薄れかたも早うなるちゆうもんや」「なるほど」「そう思うて国は一生懸命に実態改善対策やつてきた。ところが心理的差別の方は一向にようならん。ようならんのはならんだけの新しい原因があり、その原因を作つている奴がおるからちゆうわけや」「どいつですわね、そんな怪しからん奴は」「そこんとこちよつと読んでみるとやな」「今日、差別意識の解消を阻害し、また、新たな差別意識を生む様々な新しい要因が存在していることが挙げられる。」とあつて

御同朋の社会をめぐる⑩

出石組正福寺 山崎 一朗

精神が欠けているから」や言うてるな」「なんでですか「同和関係者」なんて言葉、今度新しくできたんですか、要するに部落の人間は改善対策事業に甘えて自分達で生きて行こうという気も態度もないと言いたいでつしやろ。」「まあそういうことになるな。その二はやな「えせ同和行為の横行」。これよう聞くわな。聞くたびに残念で腹煮えるわな。しかしこういうことは「同和問題はこわい問題であり、避けた方がよい」という意識があるから「えせ同和」が出てくるので、その意識は「民間運動団体の行き過ぎた言動に由来する」というわけや。」「ふうん」「その四は同和問題について世間で自由意見が交わせない「自由な意見の潜在化」ということ、これも「民間運動団体の行き過ぎた言動」によるとあるな」「するとご院さん、まとめてひつくるめて悪いのはお前たちやいうことですか」「この文章、筋から言うてそうなるな」「そんなこと言うてええんですか。これ作つた人は国の偉い人ではしやろ。そんな人がですな、国は一生懸命やつてきた、しかし心理的差別はなくなり、それは新しい原因があるからだ。それは解放同盟が行き過ぎたからだ、部落の人間に自主、自立性がなく甘つたれているからだ。責任は差別されている側にある、そんな言いかたが通るなら、これは、ご院さん同対審以前に帰つてまつせ」

門徒推進員

仏徒結成と同時に入会させて貰い乍ら、お念仏とは疎縁に過ぎた私が、五十八年九月、地方連研に参加、六十年三月修了、七月には中央教修へと、思いもよらない御縁をいただきました。御縁が深まるにつれ、これまでの自分の在り方を、何と勿体ない、無駄な回り道をしてきた事かと、つくづく反省させられ、この様な私が慈悲に包まれ生かされている事の有難さ、御縁にあわせていただける嬉しさに、感激を新たに致しました。

この御縁を、喜びを無駄にすまいと心に誓ったのですが「言うは易く、行は難し」で、初めの意気込みとは裏腹な日常である事を恥かしく思っています。今、當時を振り返って見ると「推進員」という立場への気負いや、責任感の様なものに振り回されて、唯焦っていた様に思います。お寺の運営には総代さんが当たられ、その協力者の立場で仏徒があります。私達は仏徒の一員であり、又仏徒会員として毎月の学習会にも参加し、それぞれの活動にも参加して

おります。その中で推進員として何をすれば良いのか、これは今も変わりない私達の悩みではありますが、仏徒の一員として連研に参加し、中央教修へ参加させていたただいた身であるからには、仏徒の活動の一環として働かせていただいているのではないだろうか、推進員だから、人と同じ事をしていたのではいけない」という思い上がり

組の活動

赤穂南組法光寺 松本 智哲
合掌

部内内の清掃奉仕等々、活発な活動を続けております。これらの活動の中で、できるだけ自分達の仕事を見つけ、先に立つて働かせていただく様心がけることにしました。「仏徒だより」と名付けた寺報を年二回作

成、配布（これは、当初、若坊守様の御手を煩わせていたものです）。部内四ヶ所の掲示伝道、御法座の務まる時には、梵鐘、換鐘、音楽等、推進員でさせていただいて

おります。時には仏華のお荘厳を手伝わせていただく事もあります。中には見舞伝道、家庭法座を持っておられる方もあります。若い方々への開法のお訪いも試みておりますが、実績はまだまだ上がつておりません。昨年度から始めた毎月十六日の早朝勤行に

とで補講を二回行うこととして計十五回の開催を致しました。内容につきましては教義について系統だてて勉強していただくという点から、長い間連研をされておられる網干組の組長の竹内文昭先生に一人です



3月6日 連研修了式より

会所も参加者の人達にいろんな寺院を見ていただくという意味からも、なるべくたくさんの寺院を使っていたがきました。

姫路南組は、姫路市の南東部に位置し、山陽電車の沿線に固まって居り、西は妻鹿より東は大塩までの間にあります。先般の組画変更により、旧響浦組より四ヶ寺、旧飾東組より十二ヶ寺の計十六ヶ寺で構成されております。旧組より寺院数もへり、交通の便もずっと良くなりましたので、各寺が集合し易くなりましたが、旧響浦組と旧飾東組の雰囲気が大部異なり、又組の活動も大部違っていましたので、各寺それぞれとまどしいがあつたらうと考えられます。

新しい組が発足し組長、副組長等の役員並びに責任の分担、役割も決めましたが何からどう始めていくか、暗中模索の状態でしたが、組長を筆頭にして、まず連統研修を始めることになり、各寺院より四名（各会場一本堂一の都合により）計六十四名募集し、期間は六十一年六月より、六十三年三月まで、十二回と欠席者の救済というこ

質問一、命日より遅れると、先祖（故人）が、あの世へ帰ってしまうのではないかと。 一、専門的にすぎる仏教用語は難解でこまる。

質問一、月忌、年忌の日が遅れると（読経しても）先祖供養にならないのではないかと。 一、連研受講生の巾を広げて行って欲しい等の質問が出ました。又、最終回に連研についての感想文を書いていただきましたと

ころ 一、時間が長すぎて、少し疲れる。 一、十二回十五回の連研では回数が増えておられます。こういう経過により、六十

ないで、もっと回数を増やして、生活に三年三月六日、無事、第一期修了式を行い密着した問題を取り上げて、身近かな宗教にして欲しい（新興宗教のように）

一、礼拝の作法、読経の誦まで初心者と 又他の教化組織について検討していくつもりでとても有難かった。と同時に「皆り」でおります。

伝道

一一の光明遍く十方世界を照らし 念仏の衆生をば、摂取して捨てたまはず

ざっと前のことです。所用で山口県秋芳町に行きました。その機に、何百万年、何千万年という長い時を経て変化しながら彩を呈した特別指定天然記念物秋芳洞を見学しました。夏はずしく、冬は暖かいと言われています洞内に修学旅行の学生さん、一般の方々と一緒に裸電灯の明かりをたよりに鐘乳石、石柱、滝等をめざらしく見ながら奥へ奥へと；その時、みんなが「おー」とおどろきの声を上げました。それは裸電灯のまわり

に向かつて、かわいけれど小さい草の芽が伸びているではありませんか、暗闇の中に光が灯され、裸電灯の熱によって育っている雑草の姿を見て「何と、すばらしい生命」感激をおぼえました。

親鸞聖人は世の当時は公卿から武家に実権が移り、親子、兄弟が相争い骨肉の戦が続く人々は飢え、苦しみ、天災地変が続くという渦の中でありました。

幼にして父母と別れた親鸞聖人は得度を受け出家、比叡山に登られ「生死出ずべき道」を求めて煩惱をたち切ろうといのちがけでありました。その時の信心を存覚上人は「定水を獲らずといえども識浪しきりに動き、心月と観ずといえども妄雲をば覆う」と披露されております。

聖徳太子の示現により吉水で力強くお念仏のみ教えを説く法然上人とお出遇いされた親鸞聖人は「修行を捨てて本願に帰す」と生死出ずべき道を阿弥陀さまのご本願・他力浄土門に見出されました。その後のご教化は御同朋御同行と阿弥陀如来の本願を信じ念仏して仏になる身のしあわせをおすすめになりました。私達は親鸞聖人の御苦勞をしのび、報すべきは大悲の仏感謝しても謝すべきは師長の遺徳なり」と光明と慈悲の暖かさぬもりを感じ、おかげさま、ありがたうと力強い歩みの中に報謝のまことを尽しお念仏として頂きますよう。

教区相談員 藤 永 弘 暁
(モダン寺テレホン法話より)